石岡市立東成井小学校
学校だより　１６号
令和５年９月１４日
校長　　石崎　重臣

太郎・次郎

「太郎・次郎」は，校庭にそびえるいちょうの木です

【組織目標】児童が主役　みつけよう　かんがえよう　やってみよう～認める　寄り添う　支える～

「あたりまえ」を続けていくために…！

９月１２日（火）に４年生の校外学習がありました。霞ヶ浦での「湖上体験」と新治浄水場の見学をしました。天気にも恵まれ、４年生は楽しく充実した体験学習を行うことができました。

霞ヶ浦の「湖上体験」では、船に乗って霞ヶ浦を進み、水質検査やプランクトン観察などの体験学習をさせていただきました。昔に比べると、水の汚れが進んでしまった霞ヶ浦ですが、霞ヶ浦をきれいにする働きかけがいろいろなところで行われ、少しずつきれいな姿に戻りつつあるという話を伺いました。また、私たちの普段の生活の心がけで、霞ヶ浦をきれいにすることができることを知りました。

新治浄水場では、実際の霞ヶ浦の水が水道水として家庭に届けられるまでの様子を、ろ過実験や施設見学を通して学ぶことができました。４年生の子どもたちは、霞ヶ浦の水がきれいになっていく様子に興味津々でした。浄水場見学の最後に、霞ヶ浦の水から精製された「飲み水」を飲ませていただきました。霞ヶ浦の水を見てきて、はじめは、いぶかしげな表情を見せていた子も、透明で冷えた「飲み水」を飲んだ後、口々に「おいしい！」という声が上がりました。

今回の校外学習に同行させていただいた私の中に、「当たり前」という言葉が思い浮かびました。水道の蛇口をひねると水が出てくるのは「当たり前」です。その水を私たちは「当たり前」に飲んだり、手を洗ったりしています。でも、今回の学習を通して、「当たり前」に出てくる水はたくさんの方々の手によって作られていることを知りました。

「当たり前」のことを「当たり前」だと思う前に、私たちは**「当たり前」なことに感謝する**ことを忘れてはいけない、と思いました。４年生の子どもたちも同じように感じたことでしょう。そして、最も大切なことは、この「当たり前」を維持していくために私たちにできることは何かを考え、行動に移すことだと思いました。「水」に限らず、「当たり前」と思って感謝の気持ちや行動力を忘れていることはないか、子どもたちとともに考えていきたいと思いました。私自身も改めて「当たり前」に甘んじることなく、肝に銘じて学校経営に携わっていきたい、と誓いを新たにした「体験学習」となりました。